

大切なおもちゃ～あなたにどうぞ～ありがとう

「おもちゃのリユース会 あげようもらおう！大切なおもちゃ～次の人へどうぞ～」



子どもにとって、おもちゃは特別な存在。でも、成長するにつれて、子どもとおもちゃにも出会いと別れがやってきます。

「大切にしてきたおもちゃだから捨てたくない。でも、あげる人もいない。」

岡山市中心部で、若い世代の転出転入の多い私たちの地域。

子育て中のママの言葉がヒントになり、公民館が仲人として立ち上がりました。

まず、一緒に活動してくれる地域スタッフを募り、企画から運営までスタッフ全員で行いました。中にはこの地域に定住しない方もあります。でも、「今、ここ」でできることを精一杯しようと頑張っ、ついに年3回の開催までこぎつけました。

大元公民館 p42 map 4

おもちゃだって直してリユース♪

「おもちゃの病院」

大量生産、大量消費、大量廃棄の時代の中で、子どもたちの周りにも物が溢れています。「物が壊れたから捨てる」ではなく、直して使うことや物を大事に使うことの大切さを伝える目的で開催しました。

参加した子どもたちは、ずっと使っている思い出の深いおもちゃや、直らないとあきらめていたおもちゃが直り大喜びしました。保護者の方からも「子どもに、おもちゃの仕組みが分かったり、直せばまた使えることが伝わったのでは」との声をもらいました。



旭公民館 p42 map 1

あげよう もらおう 大切なおもちゃ～次の人へどうぞ♪

ESDに
参加して!

最初は公民館の方からお話があり、軽い気持ちで少しでも役に立つならとスタッフとして参加しました。

大事に使い思い出の詰まったおもちゃを「ゴミにたくない」というのはママ友の間でも共通の思いでしたし、最後には捨てることになり「もったいない」と思っていました。

1回目はどうなることかと思いがらの開催でしたが、状態のよいものも多数あり、持ち帰る方は「大切に使います」と喜んで持って帰られました。回を重ねるにつれ、知名度も上がり大勢の方で賑わっているのを見ると、自分たちの考え方や活動は機会がなかっただけで皆が思っていたことなんだと実感できました。

これからも定期的開催して、「使ってね」「ありがとう」の善意の気持ちで地域がつながる活動になっていけばよいと思います。

大元公民館で活動している おもちゃのリユース会のみなさん



キャンドルの灯りで未来を語る

「キャンドル・ナイト～キャンドルの灯りでスローな夜を楽しみませんか?～」

目かくし鬼という遊びがあります。目をつぶるだけで、何か日常がちょっと違って見えませんか?

住民同士の交流の場をキャンドルにすることで、電灯の下では忘れていたこと、考えつかなかったこと、ちょっと先のことを、ゆったりと話せる気分にも変わります。

エネルギーの未来、まだまだ進行中の原発の問題、人と人のあり方といった、日頃はなかなか話題にする機会のないことを、キャンドルの下で話してみようと、公民館が地域の学校や各種団体、NPOなどと連携・協力して行っています。



芳田公民館 p42 map 67



おまっとさん、うどん一丁!

「うどん亭つどい」



長寿国日本では、退職後の生きがいや居場所を求める人々がいいます。

そんな皆さんの要望に応えようと発足したのが、公民館主催のうどん作り講座です。

講座終了後、腕を磨いたボランティアが、毎月一回「うどん亭つどい」を開店して、地域の皆さんの交流の場となっています。現在は、地域の福祉施設やコミュニティハウスなどで、出張ボランティアも行っています。

西大寺公民館 p42 map 14



農村に暮らす



高度経済成長期を境に農村から都市に人が移り住み、今では耕作されない農地も増えました。第一次産業に従事する人は人口の5%もありません。一方で、都市にないよさを農村に見出し、新しい生き方にチャレンジする若い人たちも増えています。都市と農村双方の価値を見直して地域を持続可能にしていくことが求められています。

うちのESD

「地産地消」そして農の未来

「わたしたちの食と農」

興除は、地域の面積の約66%でお米を中心に麦や野菜、果物が栽培されている市でも有数の農業地帯ですが、宅地化も進み、新たに転入された方々が増えています。

そんな皆さんにも、地元の農産物に関心を持ち、農業の大切さを知ってもらいたいと考え、農業のお話と地元の素材を生かした調理を学び、農、食、自然、人のつながりについて考える「わたしたちの食と農」という講座が始まりました。

地元でタマネギを作っている農家の方に、農業を始めたきっかけ、農業を取り巻く現状(休耕田が多い、後継者不足)などの話をしていただき、農家ならではの素材を生かした簡単な調理を学びました。

参加者からは、「これからは地元産の農産物を意識して買いたい」などの活発な意見があり、先生も、「関心の高さにびっくりした。農業に携わる側も情報発信をしていくことが大切だと感じた。」と話され、今回できたつながりが発展しそうな予感がします。

地域住民が興除で生産された作物を選び、消費する「地産地消」の取組みから、「興除地域の未来」を考える取組みへとつなげていきたいと思っています。

興除公民館 p42 map⑪



岡山で蕎麦づくり？

「ソバの種まきin牧石」「めざせ！そば打ち職人」

市街地と山間部の両方をもつわが地域では、自然や農にふれる機会が少ない人たちがいる一方、高齢化による耕作放棄地問題もあります。

そこで私たちは、山間部のまちの存続や防災・防犯上の課題を解決するために、年々増え続けている耕作放棄地を有効活用しようと、NPOと協働で地域づくりを始動しました。

NPOの構想は、手間がかからず収穫も年2回行えるソバを栽培して、地域をソバの花で埋め尽くし、蕎麦店の開業で仕事をつくって転住してくれる人を募り、見物人を含めた多様な人の動きをつくりだそうというものでした。

現在公民館では、地域づくりの一環として、親子で参加する種まき体験を始め、収穫体験、そば打ち体験などを、講座回数を増やしながら行っているところです。

北公民館 p42 map⑤



藤田の味を次の世代へ

藤田地域は、児島湾を干拓して生まれ、県南部の一大穀倉地域として、米・レタス・タマネギなどを栽培し、これまで農業と共に歩んできました。

私たちJA岡山女性部藤田支部は、干拓以来受け継いできた藤田の食の伝統・技を地域に密着した活動を通して幅広い年齢層に知ってもらい、伝承していきたいと思っています。藤田の食材を使った特産品づくりや公民館講座での子どもや若い母親、男性への指導もその活動の一つ。中でも「はと麦みそ」は、米の消費拡大と食の安全・安心の観点から藤田産の米・はと麦・大豆を使った体にやさしく風味豊かなわがまちのみそ。「藤田の味を次の世代へ」—藤田の豊かな自然からの恩恵を生活に生かしていくことにやりがいと喜びを感じています。

藤田公民館で活動している JA岡山女性部藤田支部



ESDに
参加して!

人と共に生きる支え合う地域づくり



都市部でも、農村部でも、もうすぐ途切れてしまいそうなものがたくさんあります。季節の行事や祭りなど、連綿と受け継がれてきたものには、地域を守りよりよくするために多様な人が楽しく協力していける知恵がつまっています。

うちの
ESD

支え合う地域づくり

つながり隊 ～良く生きるための練習～

「地域のみんでつながり隊～私たちのできること～」

岡山市街地でも断トツの高齢化率を誇る私たちのまち。住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、住民同士のつながりが不可欠となります。

行政の補完や、介護保険などではカバーできない日常のお手伝い、そんな細やかな活動のできるサポーターの養成を目指しています。

しばしば耳にするのは、支援する側とされる側の齟齬(そご)です。そこで、まずは住民の方々が何を必要としているのか、また、地域とどのような関わり方を望んでおられるのかを知ることが第一です。それを元に、どう実践するか、活動継続のためにどう展開するかを話し合います。近い将来、地域の各学校と連携して、小中学校の参加、また、多くの企業の参加も募りたいと考えています。

高齢化社会という問題を自分の課題として考えられるよう、子どもと大人が共に向き合っていく「良く生きるための練習」です。

岡西公民館 p42 map10



リクエストは『ヘビーローテーション』

「岡山大学教育学部附属特別支援学校中学部 授業『チャレンジタイム』」



「総合学習で地域の方々と交流する授業を」というお話が、地域の特別支援学校からあり、世代や障がい、国籍なども関係なく、誰にとっても暮らしやすいまちづくりを進めていくのが公民館活動。嬉しいお声かけでした。

週に一回、約一ヶ月、ダンス・音楽・工作の活動の中、生徒たちが興味のあるものを自主的に選んでもらえるようにしました。

音楽クラブでのこと、生徒たちのリクエスト曲と一緒に演奏しようということになりました。生徒のリクエスト曲は何と、「AKB48のヘビーローテーション！」

60代70代の人たちが中心のクラブ。照れ笑いと爆笑の入り混じった交流会になりました。

特別支援学校と公民館、どちらにとっても学ぶことがいっぱい、このような機会に恵まれたことに感謝したい、という声がありました。

東山公民館 p42 map29



いっしょにやろうよ、「あ、できた！」

「共生のまちづくり ～岡山県立岡山西支援学校との交流を通して～」



私たちのまちの福祉施設や支援学校では、今まで地域の人たちと直接ふれあうという機会がありませんでした。

誰もが住みやすいまちづくりを目指している公民館としては、地域のハブとして両者をつなぐ場となるよう、動き始めました。

公民館でのクラブ講座、農作物の販売、館内清掃などを共にすることから一歩を踏み出し、支援学校に公民館や地域で活躍しているボランティアが出張して読み聞かせを行うなど、相互の交流が進んでいます。

御南西公民館 p42 map66

みんなの「なぜ？」からはじまるよ

「寺子屋高松」

学校の勉強の中で、もっと知りたいことや何でそうなるのかなあと疑問に思うことはありませんか？

私たちが開催する「寺子屋」では、「教える」という一方の投げかけではなく、双方向のやりとりで、「わからないこと」をわかるまで互いに学び合います。地域の退職した先生たちが中心となって、子どもたちが主体的に学べる場所をつくらせているのです。

子どもたちの「なぜ？」を大切に见守り、一緒に解決の方法を探っていきます。

子どもたちを通して、退職後の方々も、親世代の方々も、世代を越えてつながりができ、学校の勉強が地域の学びへと広がっていきます。

高松公民館 p42 map 22



おとなになったら何になる？

「チャレンジワーク ~お仕事体験教室~」



公民館、小学校、PTAが協力して、子どもたちになりたい職業の疑似体験をもらうワークショップです。

例えば、新聞記者、ケーキ屋さん、美容師、漫画家などなど。

小学生で職業を疑似体験することによって、自分の夢や将来への気づきや、考えるきっかけになっているようです。

ボランティアスタッフとして大学生も関わっているので、子どもたちは、様々な大人たちとの交流も楽しみになります。

世の中の仕組みをちょっぴり知って、地域へも目を向けてくれたらと、願っています。

福田公民館 p42 map 60



鳴りわたれ 私たちのアンサンブル

「KNDウィンドアンサンブル」

私たちの地域は、少子・超高齢化が進んでいる地域です。中心市街地から遠く、交通の便も悪いため多くの若い人たちは、進学・就職などを機に転出します。

人は何があれば、いつまでも住み続けたい、そして、いつかまた戻りたいと思うのでしょうか？というのをテーマに、音楽による地域の魅力作りに取り組んでいます。

光南台中学校吹奏楽部を核として小学生から60代までのメンバーで発足した吹奏楽団KNDウィンドアンサンブル。地域内外の方々にも音楽を楽しんでもらえるようになりました。

活動を始めてから、少しずつ吹奏楽部員が増えました。普段は学校や仕事でなかなか地域には関われないという高校生や20代30代のメンバーもいます。現在は、地元の老人福祉施設でのボランティア演奏や公民館での行事を中心に活動しています。この活動を通して、若い人たちが一時期地域を離れても「いつか戻りたい」と思ってくれたら、そして、この子たちが大人になったとき、地域の子とも共に活躍できるようになったら…、夢は広がります。

光南台公民館 p42 map 13



夏休みフリー塾

2001年からNPO法人岡山市子どもセンター（各地域の子ども劇場）と公民館が共催し、多くの公民館で子どもが豊かに育つ地域づくりを目指して実施している事業です。

子どもたちが生活している身近な場所で楽しみながら、生きる力を育む体験活動の場を、中高生をはじめ地域住民が講師やボランティアスタッフとなってつくってきました。

それぞれの地域や公民館の特性を生かしたプログラムには、子どもたちの創作意欲を高めるタイルアートや大学生との実験教室など科学に触れるもの、ピザやうどん作り、火おこし体験やそうめん流しなど、家庭ではなかなかできない内容を取り入れる工夫もしています。

「夏休みフリー塾」



夏休みの子どもの居場所として、NPO法人文化☆体験ネット西大寺こども劇場と公民館が一緒になって、毎年さまざまな体験プログラムを展開しています。多分、プログラムの数は岡山市内で一番！ほぼ毎日あるのですから。

これが可能なのは、公民館のクラブ講座生や地域の方々子どもたちと過ごす時間を本当に楽しみに大切にしておられるからです。フリー塾が終わった途端、来年はどんな風にしようか…と話し合っておられます。

毎日がおもちゃ箱のように、楽しさいっぱいの、様々な人々が集まり、つながる豊かな場所です。

旭東公民館 p42 map 8

「夏休みフリー塾 ~中高生の活躍の場を~」

公立の幼・小・中・高校と公民館が一か所に集まっていることを生かして、遊びや学びを子どもたち自身が考え、創り出す経験の場になっています。

地域の方々の協力もありますが、ここ数年は中学生ボランティア、高校生ボランティアが大活躍しています。

ボランティア活動を行う中学生は、お手伝いから始めることが多いのですが、高校生の場合は「いずれ子どもに関わる仕事をしていきたい」など将来の目標をはっきりと意識していることが感じられます。そのため、多くの高校生が、習字・囲碁・将棋・昼食作り・夏休みの宿題などを中学生とも大人とも違った立場で小学生に向き合い教えてくれています。

学校に近いこともあって、この講座以外で出会う機会もあり、広い年齢のつながりが期待できます。

南公民館 p42 map 65

